

# 名戸ヶ谷ビオトープだより

第 105 号 2026 年夏号

2026 年 6 月 1 日発行

## 今年の田植えは、苗の植え方を変えました



稲株踏み



田植え縦線用の 30 cm (手前) と横線用 24 cm 幅の箒



田んぼが深く木道に上がるのも一苦労です



植え直しは今年も女性陣が頑張ってくれました

3月の定例活動日に田んぼ内のアカガエル産卵位置を外した稲株の踏み込み、4月は畔廻りの草取りと元肥（バイオ有機肥料）散布を行いました。ゴールデンウィーク前半に畦回り、田んぼ内の草取りを行い、田植え2日前までに板均し（代掻き）、5日の朝に藤心ライスセンターから苗を引き取り準備完了です。うるち稲を背丈が低く倒れにくい「ニジノキラメキ」にする予定でしたが、センターの育苗計画と日程が合わず、今年も「コシヒカリ」です。田植えは9日に20人、10日に17人参加で賑やかに行われました。苗を植える位置線はこれまで進行方向の縦線（27cm幅）のみでしたが、幅を30cmに広げ、苗間隔を狭くするため横線（24cm）用箒も作成しました。苗を交点に植えるようお願いしたので時間や苗の使う量が大幅に削減でき、植え直しも楽になりました。お疲れさまでした。

（小笠原 智）

# 名戸小の田植えは 学生ボランティアと一緒に活動です



田んぼに入るにはちょっと勇気が必要です



多くの方々が見守っています



みんな真剣です。まっすぐに植えてあるかな



あっという間に植え終わります

5月11日は好天に恵まれ、ビオトープ田んぼで名戸小5年生2クラスの児童が田植えを体験しました。苗の植え方と注意事項を聞いて田んぼに入りましたが、思ったより深いので足を入れるのにちょっと勇気が必要でした。今年は開智国際大学のお兄さん、お姉さん達が一緒に田んぼに入って指導してくれたので、植え始めると楽しくなりあっという間に終了、予定時間より早く終わりました。手足や半ズボンは泥んこだらけ、手押しポンプやビニールプールの洗い場は大賑わいでした。植えた稲はもち稲で、皇居で陛下が植えている品種と同じ「マンゲツ」です。稲刈りまでの生育状況も見届けてください。（小笠原 智）

## 柏市立名戸ヶ谷小学校 ビオトープ体験感想文

[1組]

- ・私は最初（あさい?）と思っていました。実際に入ってみると「ズボッ」と入ってびっくりしました。
- ・最初は作業が危ないか、大変なのかとドキドキしていました。でも、ビオトープの人たちが優しく教えてくれたので安心したらちゃんとできました。
- ・初めはわくわくの気持ちとちょっといやだなあの2つの気持ちでした。でも、いざやってみるとだんだん楽しくなってきた、夢中になり、どんどんどんどんやって2列目もやらせてもらって、とても楽しかったです。
- ・田植えをやっている途中で、この苗が大きくなってほしいと思い始めました。
- ・田植え体験をして、すごくおもしろかったです。少しスライムのような感じでした。でも、これでお米を作る大変さが少しわかりました。

# 開智国際大学の ビオトープ田植えボランティア活動報告

開智国際大学教育学部では、5月11日（月）、名戸ヶ谷ビオトープで行われた柏市立名戸ヶ谷小学校5年生の田植えの活動に、初等の教職深化プロジェクト2年生及び環境ゼミナール3年生の9名がボランティアとして参加しました。

当日は、名戸ヶ谷ビオトープを育てる会の皆様のご指導のもと、学生たちは小学生とともに田んぼに入り、苗の受け渡しや田植えの補助などを行いました。また、安全面への配慮や子どもたちへの声かけの仕方についても学びながら活動しました。

参加した学生の多くは、今回が初めての田植え体験でした。実際に泥の中に入りながら活動する中で、田植えを一つ一つ手作業で行うことの大変さや、自然環境の豊かさを体感していました。皆で協力して活動した後には、

田んぼ一面に稲が碁盤の目のように整然と植えられ、手植えによる田植え活動の成果を感じることができました。

今回のボランティア活動は、柏市環境政策課の皆様のご協力のもと参加することができました。教育学部では、今後も地域と連携した体験的・探究的な学びを通して、未来の教育を担う教員養成に取り組んでまいります。

（開智国際大学 准教授 永山 香織）



開始前に「初めての田植え」体験

- ・自分でやってみると、改めて農家さんのおかげでいつもごはんがおいしいと思いました。稲刈りでもご指導よろしくお願いします。
- ・ビオトープの場所についた時、虫がたくさんいてすごい自然にみちあふれた場所だな。」と思いました。
- ・みんなでやったから達成感がるのだと思いました。
- ・初めて田んぼの中に入ったとき、スライムみたいで楽しかったし、「これを私たちが食べるなら、ていねいにしないと！」と思い頑張りました。

[2組]

- ・最初はどろにはまりそうだなと思い不安でしたが、やってみると泥の感じよくが意外におもしろくて、楽しかったです。

- ・最初はドロドロしていやだったけどだんだんなれてきたら、下の土はつめたくて気持ちよくて、すごかった。
- ・ぼくは3列植えて、いろんな生き物もいました。ビオトープは自然もいっぱいあってとてもキレイだと思いました。
- ・これからお米をたべる時、のうかさやごはんをおいしくつくってくれたかぞくなどに、かんしゃをしながら食べたいと思いました。
- ・この田んぼの大きさをぼくらは数十人でやったけれど、田んぼを管理してくれている人たちは数人でやっていたからとても大変なんだと考えました。
- ・お米がなえからできていることにおどろきました。
- ・自分のなえが大きくなって、お米になるのを楽しみにしています。

# 開智国際大学 田植え体験 感想

## 名戸ヶ谷ビオトープを育てる会の皆さんへ

今回はとても貴重な経験をさせていただきありがとうございます。ビオトープを育てる会の皆さんとお話をし、「この体験を継続してやって行くのがとても大変」だと言っていてこれを継続していくことにとても意味があるんだなと子供達の様子をみてとても思いました。今回参加してとても自然がいいものということの再確認にもなりました。また活動をする機会があれば一緒にさせてください。本日はありがとうございます。 安部 杏華

人生で初めての田植え活動でした。最初は田植えの手順など何一つ知らなかったのですが、名戸ヶ谷ビオトープを育てる会の皆さんが分かりやすく丁寧に教えてくれたのでしっかりと田植えすることができました。また、その教えてもらったことを自分の言葉で小学生の子に伝える能力なども身に付けることができました。今回参加させていただきありがとうございました。 河原 琉太郎

今回はビオトープを育てる会に参加させていただきありがとうございました。人生で初めて田んぼで田植えを行ったので、初めての泥の感触を感じることが出来ました。田んぼに住む生き物も田んぼに入って身近に感じる事ができたのでとてもいい経験になりました。また、子どもたちに教えたことを実践させる指導力も少しつけることができました。ぜひ、次の稲刈りも参加させていただきたいです。改めて、今回は参加させていただきありがとうございました。 松浦 悠真

田植えをする事が、小学生以来だったのですが植える場所が違くと留意点が変わってくるので事前に把握を行いました。実際にいけると様々な事が起きていたのが大変でした。

事前の準備から、これからの栽培まで行う事が大変な作業なので毎年行っているのがとてもすごいと思いました。 松橋 母花

この度は、貴重な体験の機会を作っていただきありがとうございました。小学生の田植え体験をサポートする中で、子どもたちが自然に触れながら生き生きと学ぶ姿を見ることができ、とても良い経験になりました。また、活動を通して、地域の自然を守り育てていくことの大切さや、自然と人とのつながりについても学ぶことができました。皆さんが丁寧に環境を整え、活動を支えてくださっているからこそ、このような学びの場が成り立っているのだと感じました。

さらに、田植えの準備や安全面への配慮など、活動の裏側には多くの工夫や努力があることも知ることができました。子どもたちが安心して自然体験を行える環境を作ってくださっていることに感謝しています。

今回学んだことを今後の学びや将来の教育活動にも生かしていきたいと思います。本当にありがとうございました。 安部 友菜

この度は参加させていただきありがとうございました。今回の活動である、田植えの体験は、わたしにとって有意義なものでした。今までやったことをないことを体験させていただいただけでなく、子どもたちとの関わりを持たせてもらえてとても楽しかったです。今回の体験を子どもたちとの関わり方に生かしていきたいです。

この度は本当にありがとうございました。 森本 海晟

名戸ヶ谷ビオトープでの貴重な体験に参加させていただきありがとうございました。

今回の体験で苗を植える体験を通して米作りの大変さや多種多様な動植物が生きることができる環境づくりのすごさが分かりました。普段できないとても貴重な経験になりました。また、丁寧に教えていただいたおかげで児童の田植え体験を行う際にスムーズに田植えについて伝達することができました。

今回学んだことを今後の教員になった時の学習や生活に生かしていきたいです。本当に貴重な体験をさせていただきありがとうございました。 塚原 聡一郎

先日は田植えでお世話になりました。とても貴重な経験させて頂き光栄でした。自分自身、田植えを見た事はあってもやってみるのは初めてだったため実際にやってみても大変でしたし、楽しかったです。田んぼに入った時の中々抜け出せない感覚が今でも残っていて、転びかけたことを思い出します。また真っすぐに植えるのが難しく、後ろを見るとぐちゃぐちゃになることもあり、名戸ヶ谷ビオトープを育てる会の皆さんの凄さとお大変さを実感しました。

夏～秋頃には稲刈りを行うとのことで、是非そちらの方にも参加してみたいと考えています。その時まで自分が植えたのがどうなっているか楽しみにしたいと思います。

この度はありがとうございました。 浅水 大和

今回、私は名戸ヶ谷ビオトープで行われた田植え体験のボランティアに参加しました。大学生として小学5年生の児童に苗の植え方を指導しましたが、私自身も田植えをするのは初めてだったため、最初は不安な気持ちがありました。しかし、実際に児童と一緒に活動する中で、多くのことを学ぶことができました。

田んぼに入ると、泥の感触が普段の生活では味わえないもので、とても印象に残りました。苗をまっすぐ植えたり、一定の間隔で植えたりすることは思っていた以上に難しかったです。児童たちも最初は泥に入ることを嫌がっていましたが、活動が進むにつれて笑顔で楽しそうに取り組んでいました。その姿を見て、自然の中で体験的に学ぶことの大切さを感じました。

また、児童に教える立場として活動する中で、相手に分かりやすく説明することの難しさや大切さを実感しました。どのように声をかければ安心して活動できるのかを考えながら関わることで、自分自身のコミュニケーション力についても学ぶことができました。さらに、名戸ヶ谷ビオトープでは、トンボやチョウなど、さまざまな生き物を見ることができました。田んぼはお米を育てる場所であるだけでなく、多くの生き物が暮らす自然環境でもあることを知りました。普段はあまり自然に触れる機会が少ないため、自然の豊かさや環境を守ることの大切さを改めて感じました。

今回のボランティア活動では、児童に教える立場として参加しましたが、実際には私自身が多くの学びを得ることができました。初めてのことに挑戦する大切さや、人と関わりながら学ぶ楽しさを感じることができ、とても貴重な経験になりました。 眞木 晃貴

開智国際大学

2年：教職深化プロジェクト

3年：環境・理数ゼミナール

2026年5月

# 春の生きものの観察会

5月24日（日）9:00～10:30 気温 18℃ 曇り  
朝から曇天で肌寒い陽気でしたが、春の生きものの観察会を行いました。会員7名、市民家族2名、開智国際大学から2名と計11名の参加です。松清氏からビオトープの説明の後、用意された網とバケツを持って、田んぼの木道沿い、ザリガニ釣り場や三角池などを回りシオカラトンボ、モンシロチョウ、ジャコウアゲハ、アメリカザリガニ、カダヤシ、ヤゴ、カワニナ、コガネクモ、アメンボ、ヤモリなどを捕獲しました。気温が低く鳥類、トンボや蝶などはあまり飛んでいません。捕獲した生きものについて松清氏、高橋氏から詳しい説明があり、質問などやり取りしました。外来種のことや、メダカとカダヤシの違いなどを説明し聞き入っていました。終えて捕獲した生きものを元の場所へ放しました。短い時間でしたが生きものに触れて更に知識の深まった事と思います。（藤平 三郎）



松清氏よりビオトープの説明



生きものを探しています



生きものを探しています 松清氏、高橋氏より生きものの説明



トンボの幼虫 ヤゴ



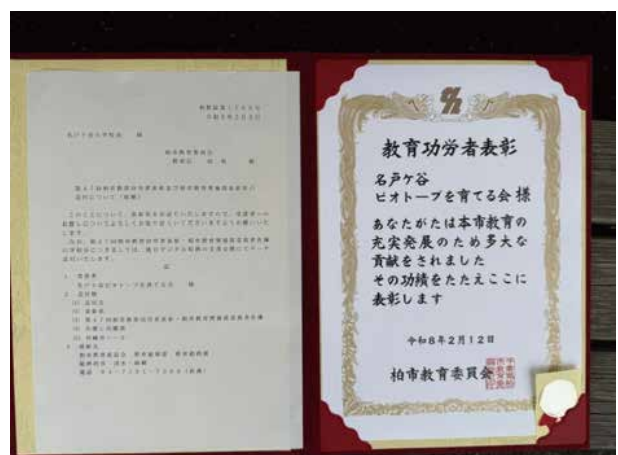
カナヘビ 木道で休んでいます

## 教育功労賞を頂きました

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会は、名戸ヶ谷に残る谷津と湧水環境の保全及び活用を目的に設置された市民団体である。平成15年に地域住民や学識経験者等を中心として本会が発足し、それ以来、湿地や水田の保管理、生きものの調査、自然観察会等を継続的に実施するとともに、無農薬・無化学肥料による稲作やヘイケボタルの生息環境再生に取り組み、里山生態系の保全・再生に寄与してきた。

また、名戸ヶ谷小学校をはじめとする学校の環境学習の場として活用され、田植えや稲刈り等の体験活動を通じて児童が身近な自然に触れる機会を提供している。かつては学校行事においてビオトープ米を用いた餅つきも実施されており、近年では、育成した米や児

童が栽培したもち米を海外支援に活用するなど、地域と世界をつなぐ学習にも発展している。また、会報の発行や体験活動を通じて地域への情報発信として交流を深め、名戸ヶ谷の自然環境を次世代につなぐ基盤を築いている。（名戸ヶ谷小学校 校長 津久井 智洋）



# 月例活動状況の報告（3月から5月まで）

## 3月15日（日）

朝から晴れて気温もぐんと上がって春本番の陽気となりました。作業は A ゾーン田んぼの稲株踏みと B ゾーンの草刈りです。稲株踏みは一部残りましたが 4 月に作業し完了予定です。そして、名戸ヶ谷小の推薦により柏市教育委員会から教育功労者表彰状を頂き会員に披露しました。又、ビオトープだより 2026 年春号の配布をしました。



← 田んぼの稲株踏み →



B ゾーン 草刈りとゴミ拾い

## 4月19日（日）

朝から晴れて気温も上がり 5 月並みの陽気となりました。作業は肥料散布とホタル水路脇の草刈り、B ゾーンの草刈り、作業小屋前、トイレ前の南天の剪定などを行いました。そして田植えの日程を 5 月 9 日（土）、10 日（日）、名戸ヶ谷小の田植えは 11 日（月）とお知らせし、協力をお願いしました。



← 田んぼへ肥料散布 →



ホタル水路周辺の草刈り

## 5月17日（日）

朝から快晴で気温もぐんと上がり夏日となりました。作業は、A ゾーン休耕田のガマ、マコモ刈り、ホタル水路周辺のヨシ刈り、もち田 No2 植え直し、B ゾーン木道沿いの草刈り、ザリガニ釣り場のヨシ刈りです。熱中症に注意して水分補給し作業をしました。終えて会員手作りのお菓子で歓談し、24 日（日）春の生きもの観察会のお知らせをしました。（藤平 三郎）



休耕田 ガマ、マコモ刈り



ホタル水路周辺のヨシ刈り



もち田 No2 植え直し



B ゾーン木道沿いの草刈り

# ビオトープの現況

今年も田んぼに苗が整然と並びました。ニホンアカガエルの卵塊は 180 個を超え、春～初夏の花々や野鳥が多く見られます。



### 倉庫裏のキンラン

今年も咲いた倉庫裏の「キンラン」です。後方にも 1 株あります。



### アオサギが飛来

久しぶりに飛来した「アオサギ」です。コサギやダイサギは時々来ています。



### 井戸の手押しポンプ

倉庫脇の井戸ポンプピストン弁が破損、ピストン弁を交換しました。



昨年 12 月 13 日に所属している山の会メンバー 12 名で神奈川県  
の陣馬山に登山しました。陣馬山は相模原市と八王子市にまたがる  
855m の低山で、360 度の大パノラマと山頂の白馬像が特徴の人気ハ  
イキングスポットです。しかしながら頂上に近づくにつれ急登とな  
り、74 歳の老体にはきつい修行でしたが何とか白馬像を見ることが  
できました。そんな時、頂上近くの山道で珍しいものを見つけました。  
道横の斜面に 2 つ、3 つと白い花が咲いているようなので、近づい  
て見ると霜が花の形に固まったものでした。私は疲労困憊して写真  
を撮る余裕がなかったのでリーダーが撮ったものをお借りしました。  
自宅に戻りスマホで調べると「氷華」であることがわかりました。  
冬の朝、枯れた草茎の維管束の中にある水が凍りついて茎から氷が  
花のように出現したものでした。山歩きしないと出会えない小さな  
発見でした。帰路に陣馬山最寄り駅裏の居酒屋でお疲れ様会となっ  
たが、登山後のビールは格別でした。2025 年の漢字である「熊」の  
話題が出ましたが、私達の会も十分注意して山歩きをしています。  
健康に気を付けて、無理をしないで続けていきたいです。(倉岡 尊)  
【今年も猛暑日が多いと思われます。ちょっと涼んで下さい。】

## 雑感



氷華

(「まちの植物はともだち」より)

## 新会員の紹介

### 山田 和子さん



この度、縁あって名戸ヶ谷ビオトープを育てる会に入会しました山田です。後期高齢者ですが気持ちは元気いっぱい、まだまだいろんな事にチャレンジしてみたいと思っています。農業経験も知識も全くありませんが土いじりは好きです。どうぞ宜しくお願い致します。

### 一之瀬 朋子さん



今回5月に入会しました一之瀬です。河北さん、倉林さん、大学さん、山田さんと生涯大学でご一緒しています。河北さんにビオトープのお米作りが楽しいので是非とのご紹介をいただき参加することになりました。田植えは初めてでほんの少し植えただけでしたが、吹く風爽やかで、田植えの仕方や色々な話を聞き参考になりました。小さな蛙の登場にびっくりしたり、会員のお子さんのスムーズな田植え姿に感心させられたり、皆様の優しい心遣いに楽しい時間を過ごしました。これからも色々な発見をしながら楽しんでいけたらと思っています。どうぞよろしくお願いします。

## 6～9月の活動予定

(定例活動は第3日曜日)

6月17日：春の生態系調査

6月3日、20日、27日：ヘイケボタル観察会

6月末～7月中旬：大賀ハス開花

6月21日：定例活動日（田の草取り、Bゾーン・休耕田草刈り）

7月19日：定例活動日（外来種の草、ガマ等の草刈り、稲への追肥散布）

8月16日：定例活動日（各所の草刈り）

9月12～13日：稲刈り（名戸小の稲刈り日は未定）

注）詳細の日時・作業内容は担当幹事からメールにて連絡します。

### 名戸ヶ谷ビオトープに来てみませんか？

交通：柏駅東口より東武バス（5番乗り場）

「名戸ヶ谷行き」「新柏行き」で「名戸ヶ谷記念病院前」下車

面積：約4,400㎡

湿性植物：53種 生きもの：133種

（2024年、年間を通じて観察した種類）



<https://nadogaya-biotope.com/>

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会

発行責任者：小笠原 智